

「感染症に関するアンケート」実施報告

三重県医療保健部感染症対策課が実施しました「感染症に関するアンケート」について、結果をとりまとめましたので、次のとおりご報告します。

1 アンケート概要

- (1) 実施期間 令和4年11月2日から11月18日まで
- (2) 対象者数 1,385人
- (3) 回答数 902人
- (4) 回答率 65.1%
- (5) 回答者属性

【年代別】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
回答数	4人	50人	114人	213人	236人	215人	70人
割合	0.4%	5.5%	12.6%	23.6%	26.2%	23.8%	7.8%

【地域別】

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答数	449人	243人	111人	75人	24人
割合	49.8%	26.9%	12.3%	8.3%	2.7%

※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢：津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀：名張市、伊賀市

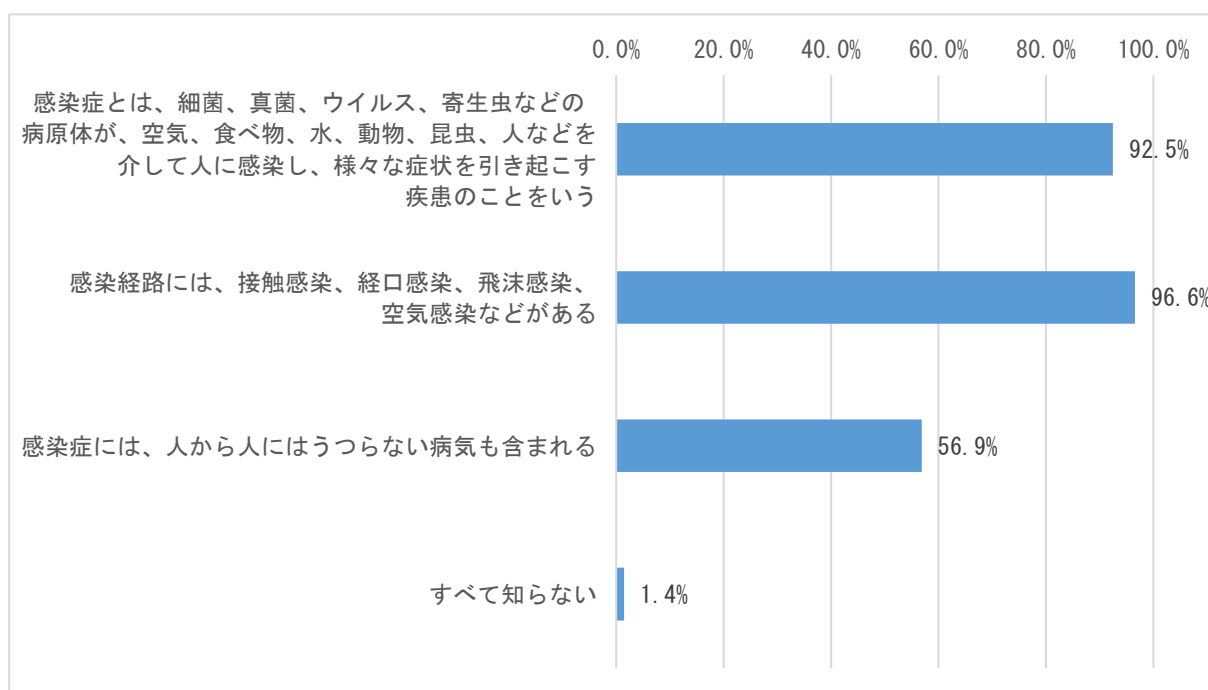
東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

※割合は少数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

2 アンケート結果

Q1 感染症について

感染症についての次の3つの記述のうち、知っているものをすべて選んでください。

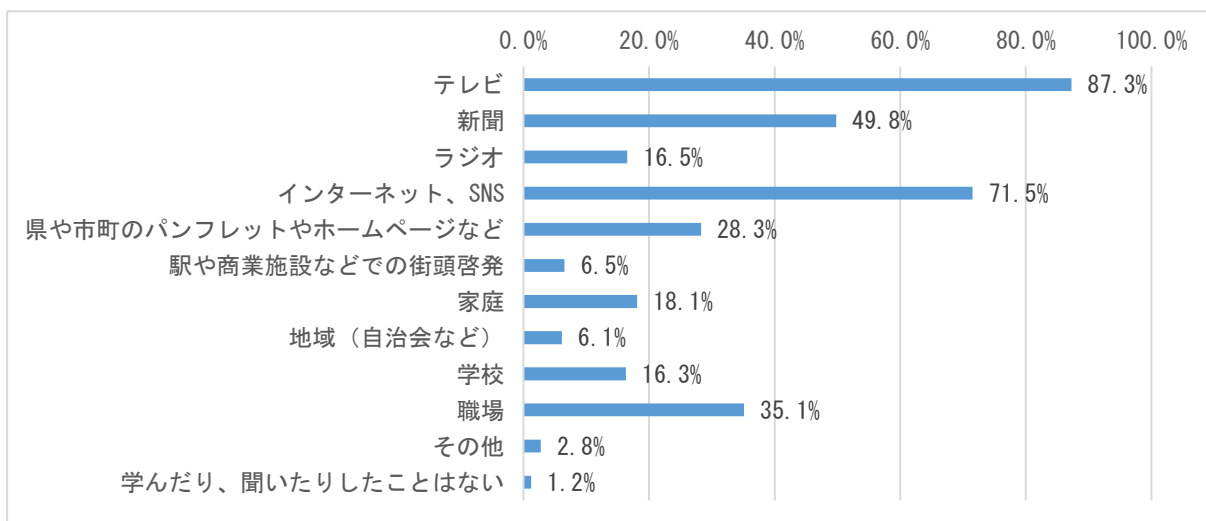


感染症についての記述のうち知っているものについて、「感染症とは、細菌、真菌、ウイルス、寄生虫などの病原体が、空気、食べ物、水、動物、昆虫、人などを介して人に感染し、様々な症状を引き起こす疾患のことをいう」、「感染経路には、接触感染、経口感染、飛沫感染、空気感染などがある」と回答した人の割合はそれぞれ 92.5% (834 人)、96.6% (871 人) で、9 割以上の方が知っているという結果でした。

一方で、「感染症には、人から人へはうつらない病気も含まれる」ことについて知っているとは回答した人は 56.9% (513 人) となっており、例えばデング熱やエキノコックス症等、人から人への感染はほとんどないものの、動物等を介して感染するとされる感染症について、正しい情報の周知を図っていく必要があります。

Q2 感染症を知る機会について

あなたは、感染症についてどこかで学んだり、聞いたりしたことはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。



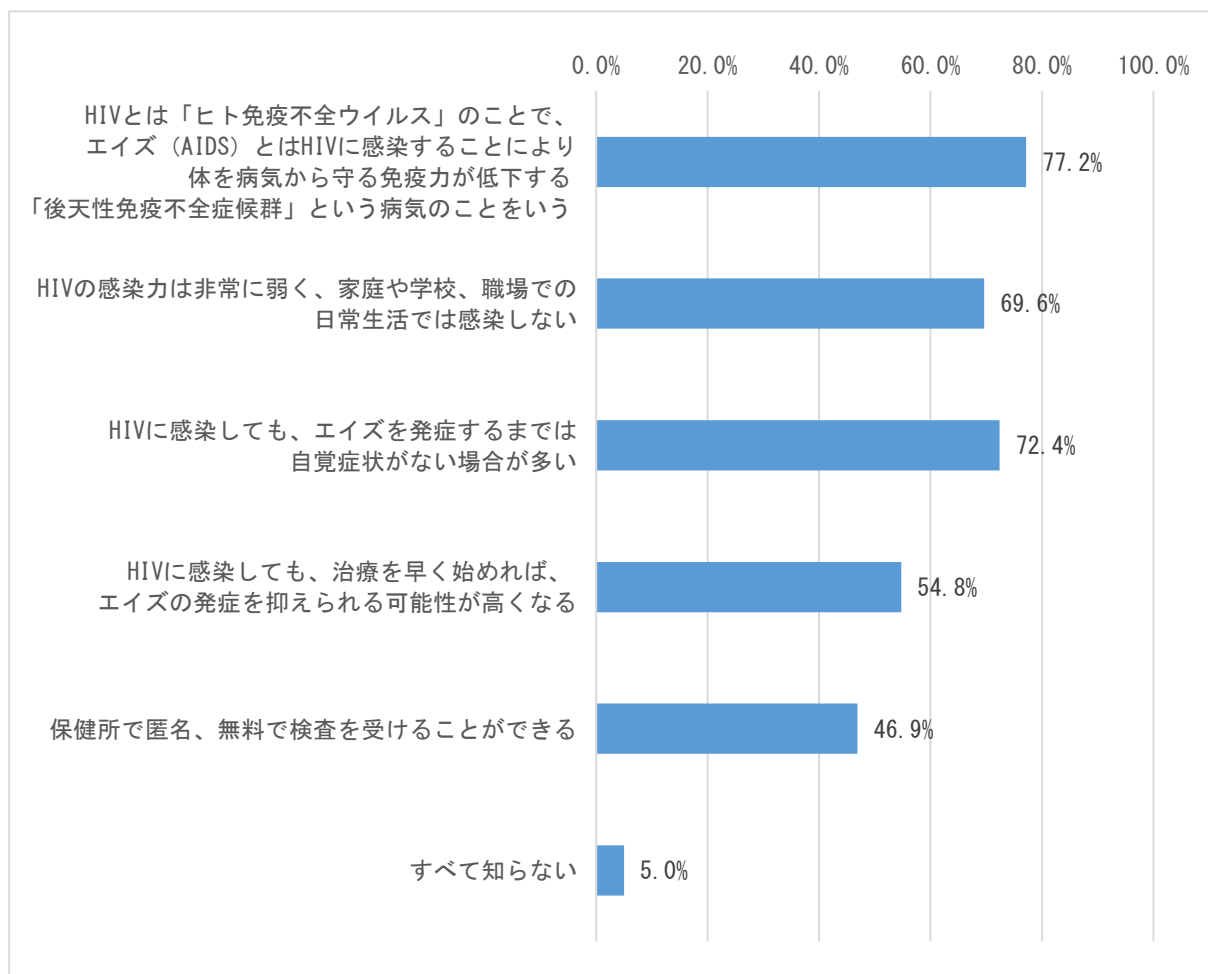
感染症を知る機会について、最も多い回答は「テレビ」87.3% (787人)で、次いで「インターネット、SNS」71.5% (645人)でした。

	1位	2位	3位
20代以下	テレビ (81.5%)	インターネット、SNS (74.1%)	学校 (44.4%)
30代	テレビ (86.0%)	インターネット、SNS (78.9%)	職場 (38.6%)
40代	テレビ (86.4%)	インターネット、SNS (71.4%)	新聞、職場 (40.8%)
50代	テレビ (86.0%)	インターネット、SNS (72.0%)	新聞 (50.4%)
60代	テレビ (90.7%)	インターネット、SNS (70.2%)	新聞 (69.3%)
70代以上	テレビ (90.0%)	新聞 (81.4%)	インターネット、SNS (60.0%)

年代別でみると、すべての年代において最も回答が多かったのは「テレビ」で、次いで多かった回答は、60代以下では「インターネット、SNS」、70代以上では「新聞」となっており、年代により情報収集方法に違いがあることが分かります。

Q3 感染症に関する知識について (① HIV/エイズ)

HIV/エイズについての次の5つの記述のうち、知っているものをすべて選んでください。

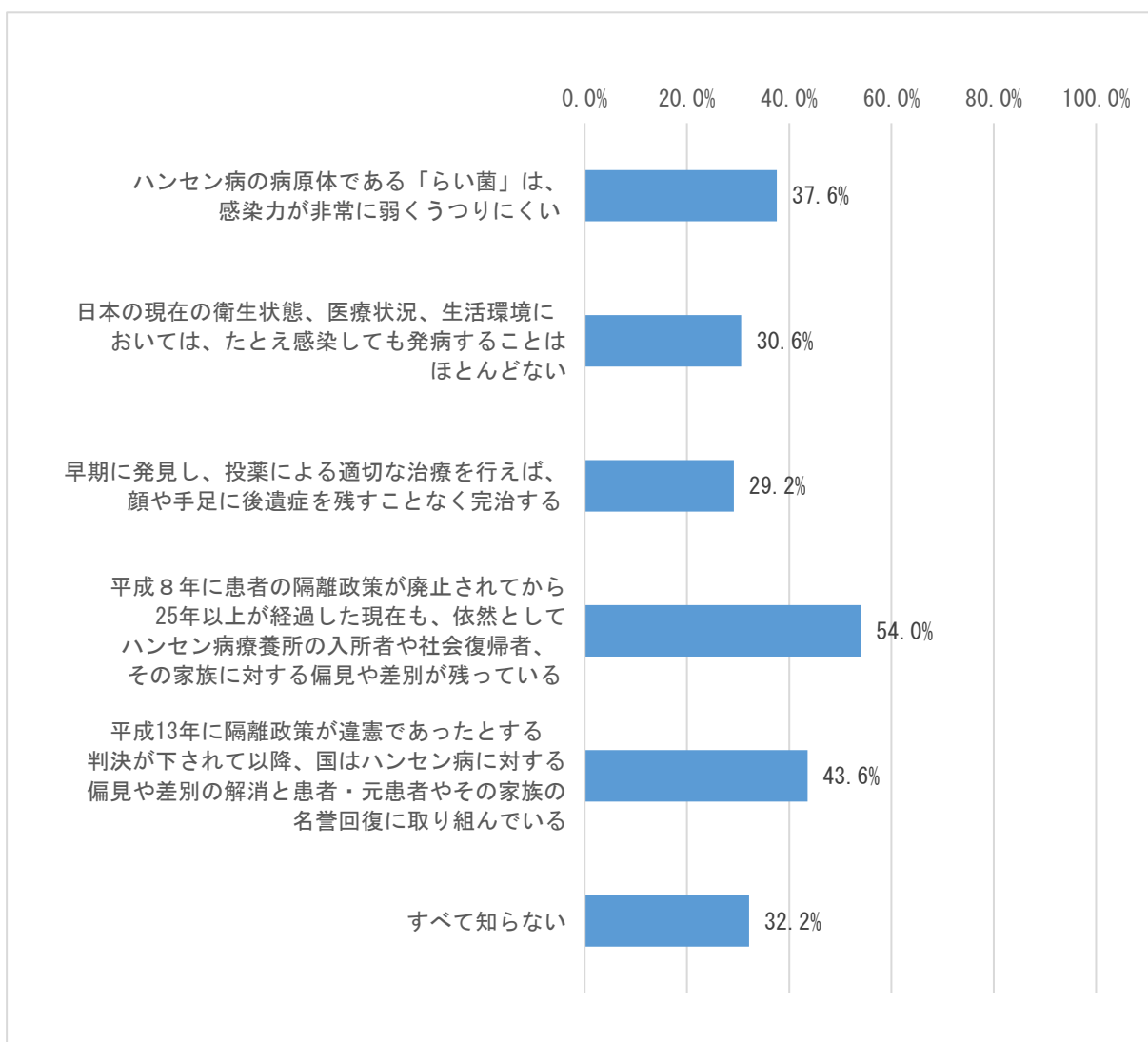


HIV/エイズに関する知識について、最も多い回答は「HIVとは『ヒト免疫不全ウイルス』のことで、エイズ (AIDS) とは HIV に感染することにより体を病気から守る免疫力が低下する『後天性免疫不全症候群』という病気のことをいう」77.2% (696 人) で、次いで「HIV に感染しても、エイズを発症するまでは自覚症状がない場合が多い」72.4% (653 人) でした。

一方で、「保健所で匿名、無料で検査を受けることができる」と回答した方は 46.9% (423 人) と 5 割を下回っており、改めて無料検査事業の周知を図る必要があります。

Q4 感染症に関する知識について (② ハンセン病)

ハンセン病についての次の5つの記述のうち、知っているものをすべて選んでください。



ハンセン病に関する知識について、最も多い回答は、「平成8年に患者の隔離政策が廃止されてから25年以上が経過した現在も、依然としてハンセン病療養所の入所者や社会復帰者、その家族に対する偏見や差別が残っている」54.0% (487人) で、次いで「平成13年に隔離政策が違憲であったとする判決が下されて以降、国はハンセン病に対する偏見や差別の解消と患者・元患者やその家族の名誉回復に取り組んでいる」43.6% (393人) でした。

	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
「全て知らない」と回答した割合	40.7%	60.5%	42.3%	30.1%	14.4%	10.0%

一方で、「すべて知らない」と回答した方は32.2% (290人) で、年代別で見ると若い年代の割合が高くなりました。ハンセン病問題を風化させないため、ハンセン病に関する正しい知識の普及や啓発に努める必要があります。

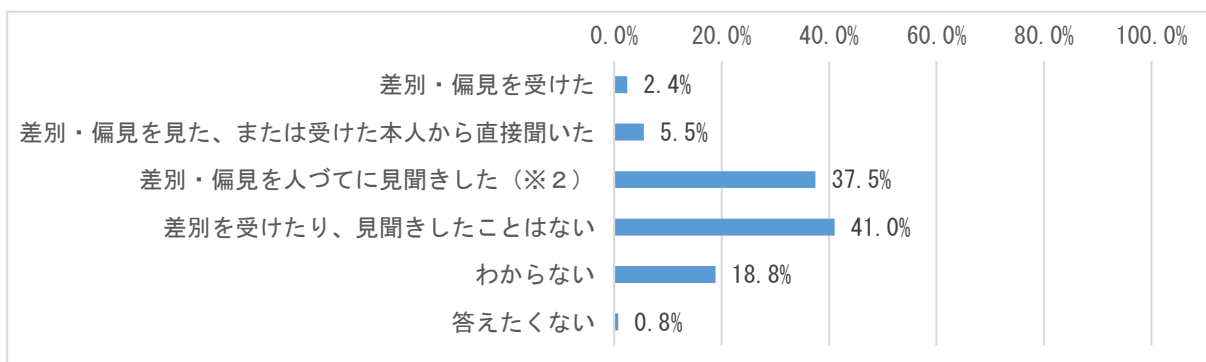
Q5 感染症に関する差別・偏見について 1

三重県感染症対策条例では、第10条で患者やその家族、医療従事者、エッセンシャルワーカー（※1）等への差別の禁止を定めています。

あなたは、感染症に関する差別・偏見について、実際に受けた、または見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

※1 「エッセンシャルワーカー」とは、県民の生活及び経済の安定に寄与する業務に従事する人のことをいいます。（例：生活必需品の販売・物流、公共交通機関、介護・教育・保育、郵便・宅配など）

※2 以下の選択肢中にある「人づてに見聞きした」場合には、本人以外から間接的に聞いた場合のほかに、マスメディア、インターネット、SNS等で見聞きした場合も含まれます。



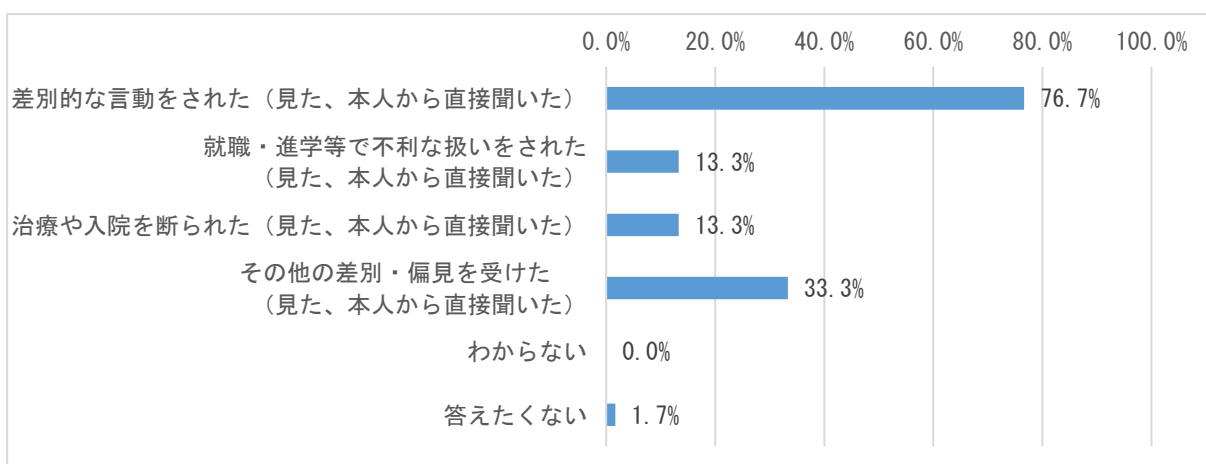
感染症に関する差別・偏見について、実際に「差別・偏見を受けた」と回答した人が2.4%（22人）、「差別・偏見を見た、または受けた本人から直接聞いた」と回答した人が5.5%（50人）でした。

「差別・偏見を受けた」、「差別・偏見を見た、または受けた本人から直接聞いた」と「差別・偏見を人づてに見聞きした」37.5%（338人）を合わせた合計は45.5%（410人）で、概ね2人に1人が感染症に関する差別・偏見を受けた、または見聞きしたと回答しています。

Q6 感染症に関する差別・偏見について 2

Q5で「差別・偏見を受けた」または「差別・偏見を見た、または受けた本人から直接聞いた」と回答された方にお聞きします。

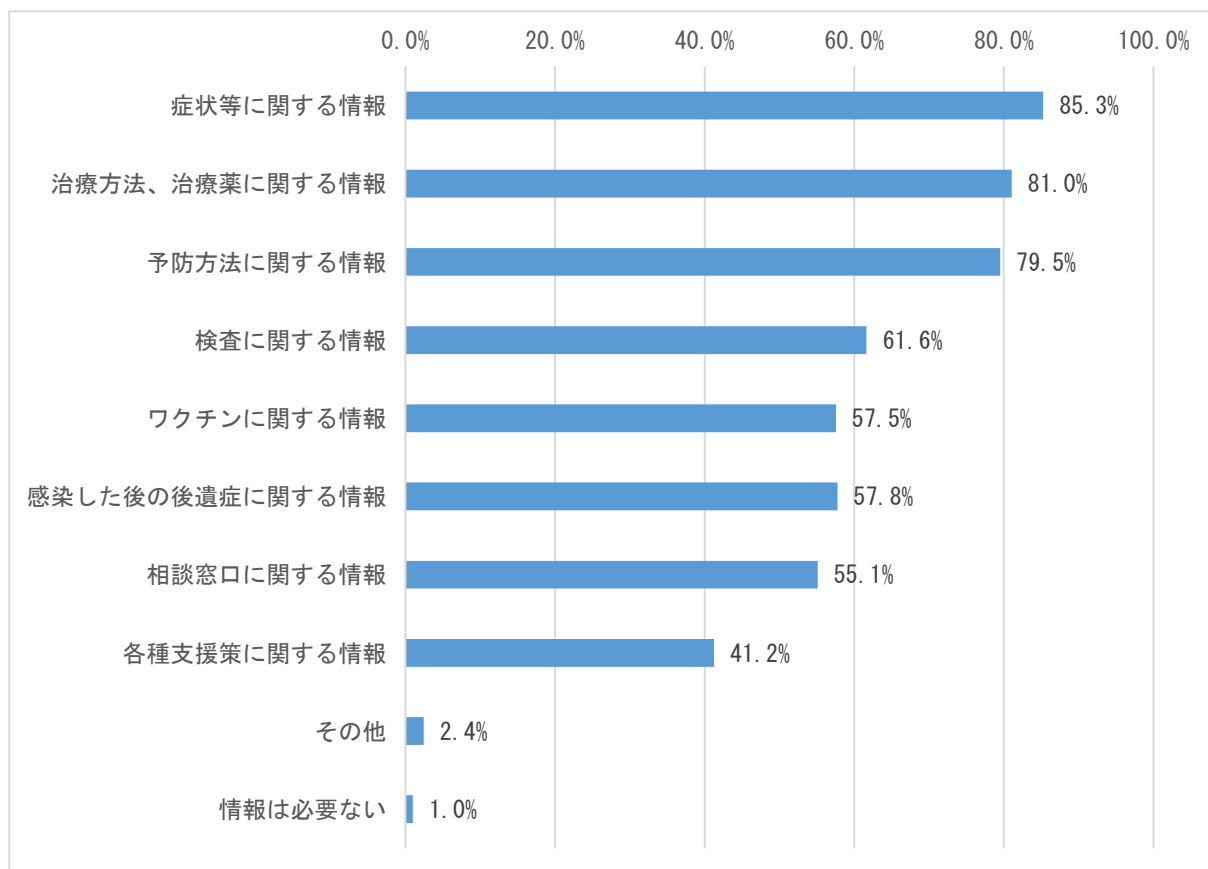
それはどのようなものでしたか。あてはまるものをすべて選んでください。



Q5で「差別・偏見を受けた」「差別・偏見を見た、または受けた本人から直接聞いた」と回答した方のうち、偏見・差別の内容として最も多かったのは「差別的な言動をされた(見た、本人から直接聞いた)」で76.7%（46人/60人）でした。

Q7 感染症にかかる啓発等について 1

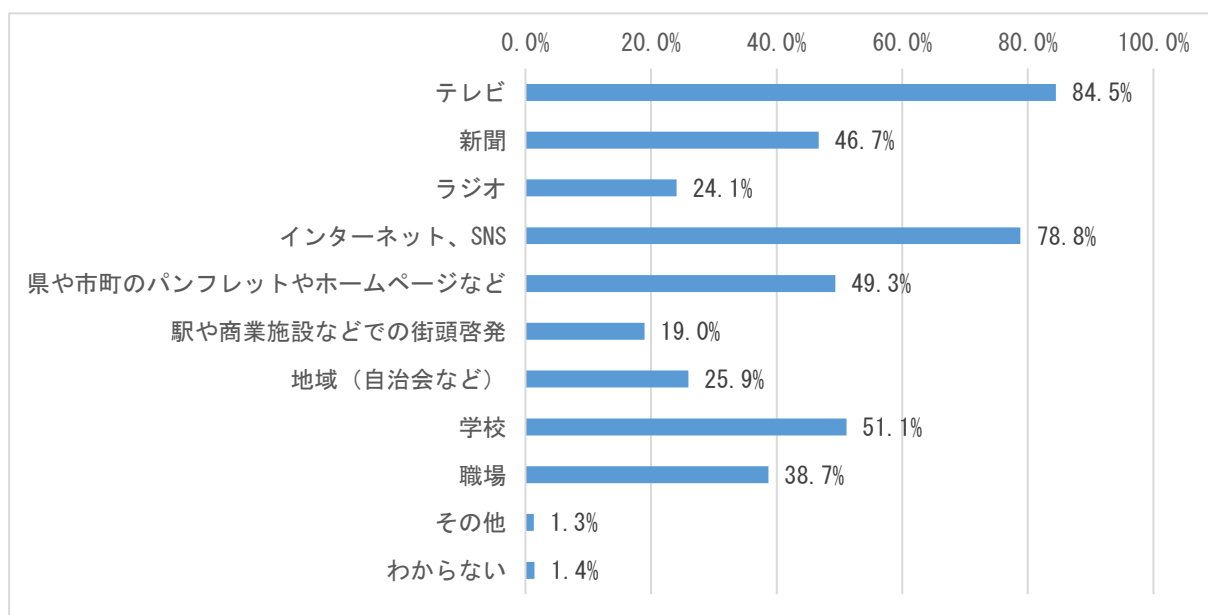
あなたは、感染症についてより多くの人に効果的に啓発するためには、どのような情報の提供が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



感染症にかかる効果的な啓発に必要な情報については、「症状等に関する情報」85.3%（769人）が最も多く、次いで「治療方法、治療薬に関する情報」81.0%（731人）、「予防方法に関する情報」79.5%（717人）となっており、感染した際の症状や治療法等の情報や、感染予防に関する情報を望む声が多いことが分かりました。

Q 8 感染症にかかる啓発等について 2

Q 7でお聞きした感染症に関する情報について、あなたはこういった場所や方法、媒体での啓発が効果的だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



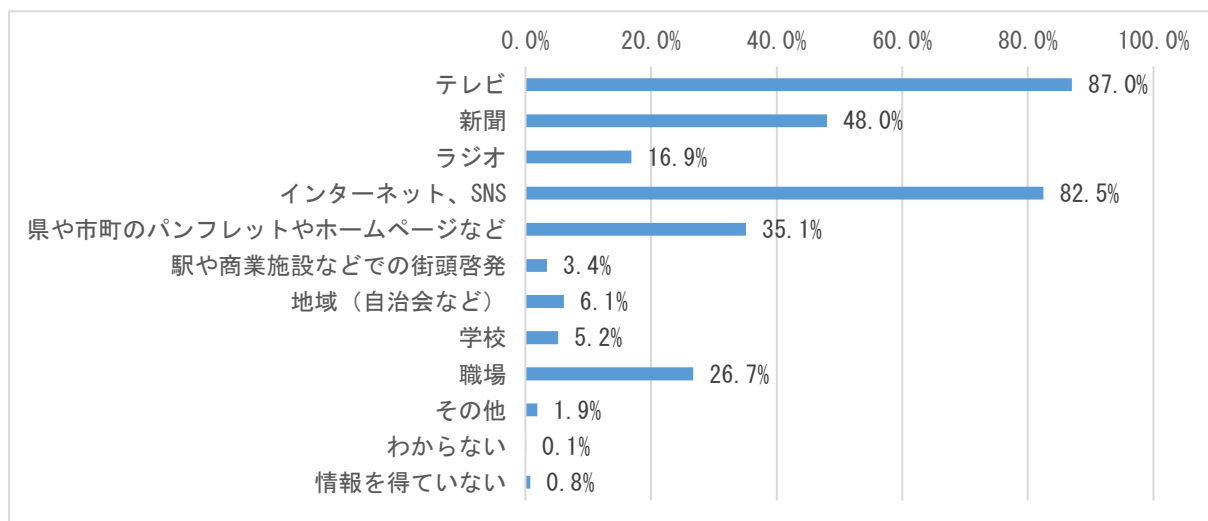
感染症にかかる効果的な啓発場所、方法について、最も多い回答は「テレビ」84.5% (762人) で、次いで「インターネット、SNS」78.8% (711人)、「学校」51.1% (461人) でした。

	1位	2位	3位
20代以下	インターネット、SNS (87.0%)	テレビ (83.3%)	学校 (64.8%)
30代	インターネット、SNS (77.2%)	テレビ (76.3%)	学校 (55.3%)
40代	テレビ (81.7%)	インターネット、SNS (80.3%)	学校 (53.1%)
50代	テレビ (83.9%)	インターネット、SNS (81.4%)	県や市町のパンフレットやホームページ等 (51.7%)
60代	テレビ (89.3%)	インターネット、SNS (75.3%)	新聞 (61.9%)
70代以上	テレビ (94.3%)	新聞 (77.1%)	インターネット、SNS (72.9%)

また、年代別で見ると、40代以下で「学校」が3位となっており、若年層への情報発信の場として重要であると考えていることが分かります。

Q9 新型コロナウイルス感染症に関する情報について

あなたは、新型コロナウイルス感染症に関する情報をどのような方法で得ていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

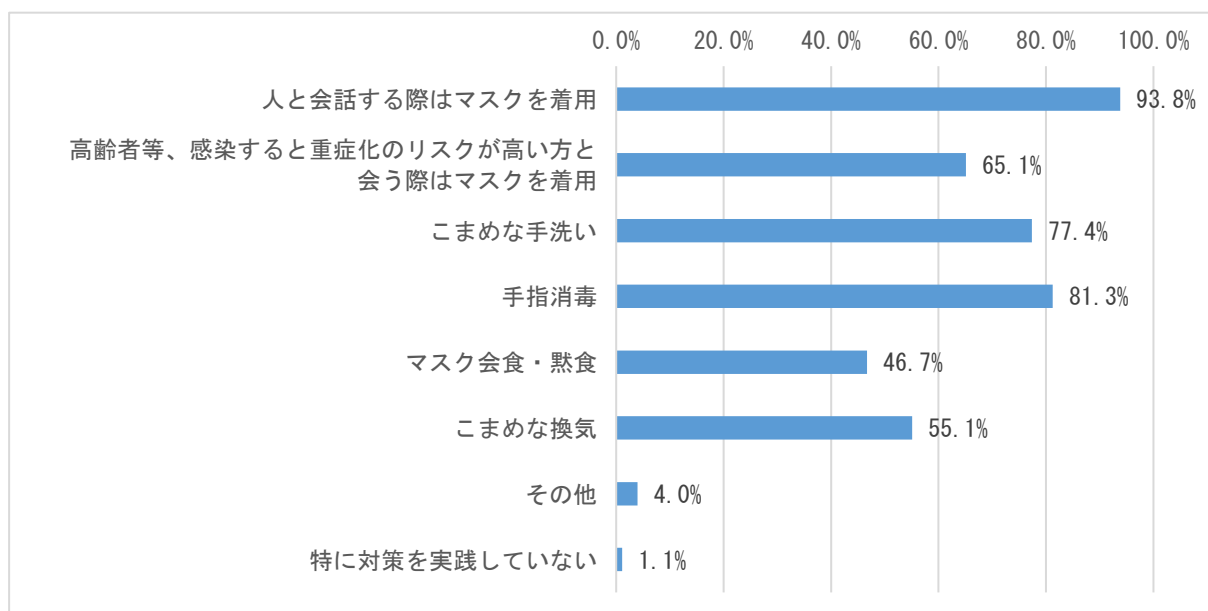


新型コロナウイルス感染症に関する情報を得る方法について、最も多い回答は「テレビ」87.0%（785人）で、次いで「インターネット、SNS」82.5%（744人）、新聞48.0%（433人）でした。

また、「県や市町のパンフレットやホームページなど」は35.1%（317人）でした。

Q10 新型コロナウイルス感染症対策の実践について

あなたが新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、実践していることについて教えてください。あてはまるものをすべて選んでください。

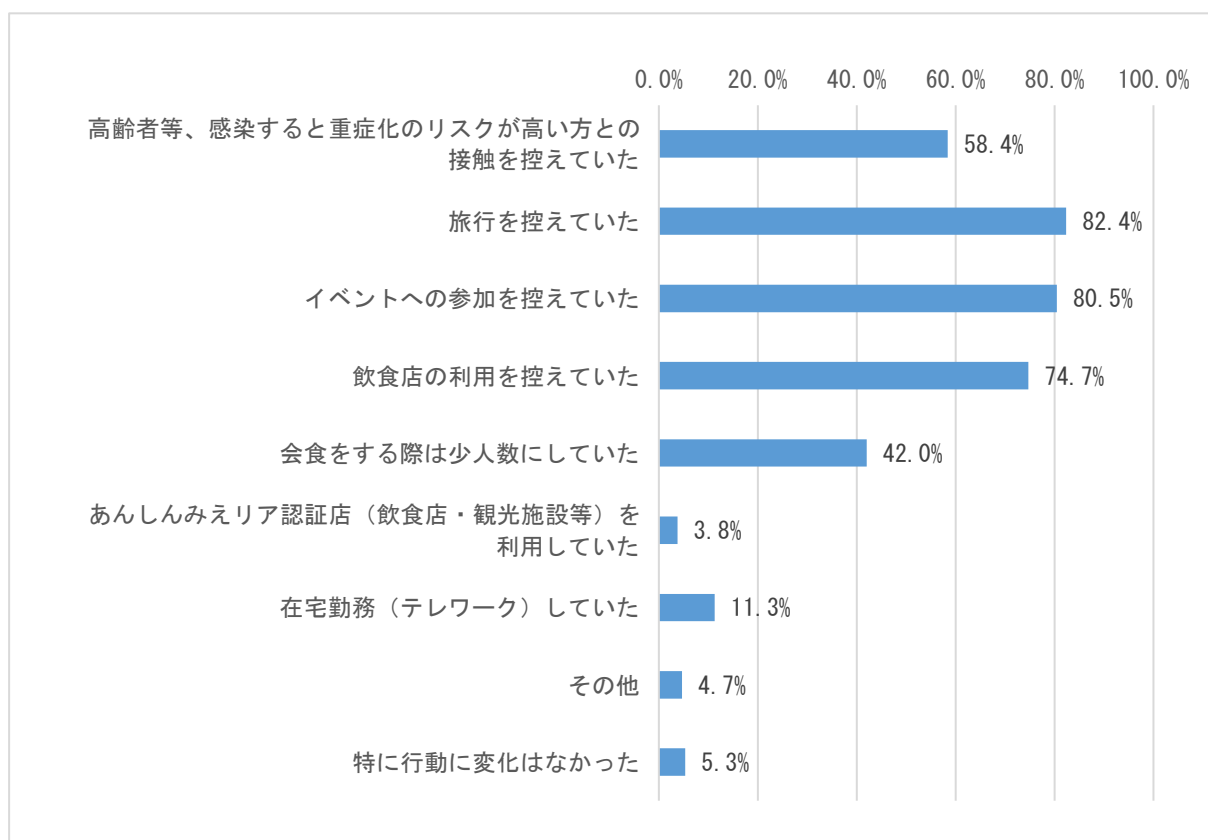


感染防止対策として実践していることについて、最も多い回答は「人と会話する際はマスクを着用」93.8%（846人）で、次いで「手指消毒」81.3%（733人）、「こまめな手洗い」77.4%（698人）でした。

また、「その他」を選んだ方の回答では、「不要な外出を控える」、「人混みを避ける」などが挙げられました。

Q 1 1 新型コロナウイルス感染拡大時の行動について

あなたは、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大している時期（まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発出されていた間）において、行動に変化はありましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

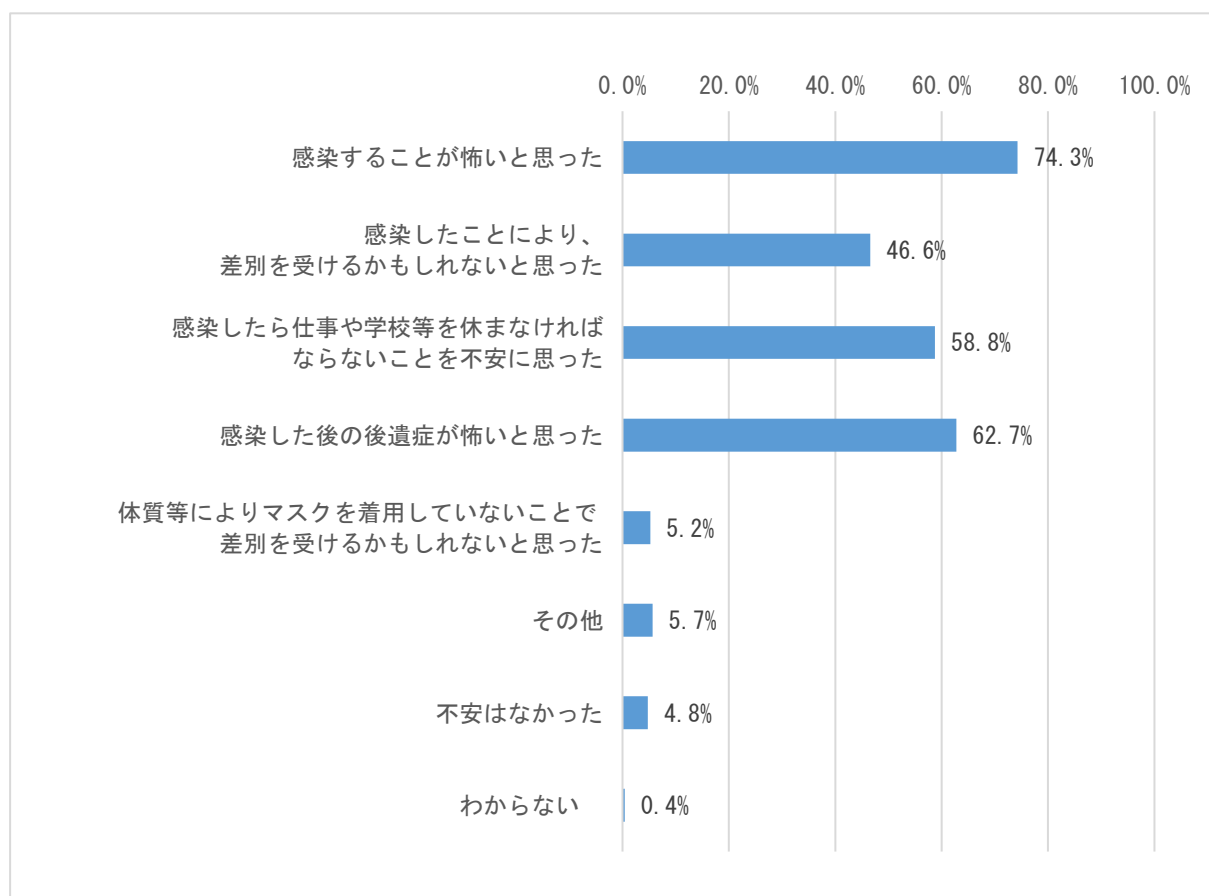


感染拡大時の行動変化について、最も多い回答は「旅行を控えていた」82.4%（743人）で、次いで「イベントへの参加を控えていた」80.5%（726人）、「飲食店の利用を控えていた」74.7%（674人）でした。

また、「その他」を選んだ方の回答では、「不要不急の外出を控えていた」、「人混みを避けるようにした」、「会食をしなかった」などが挙げられました。

Q 1 2 新型コロナウイルス感染症に対する不安について（令和2年・2020年ごろ）

あなたは、新型コロナウイルス感染症について、県内で感染が最初に確認された令和2年1月30日から約1年の期間中に、不安に思っていたことはありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

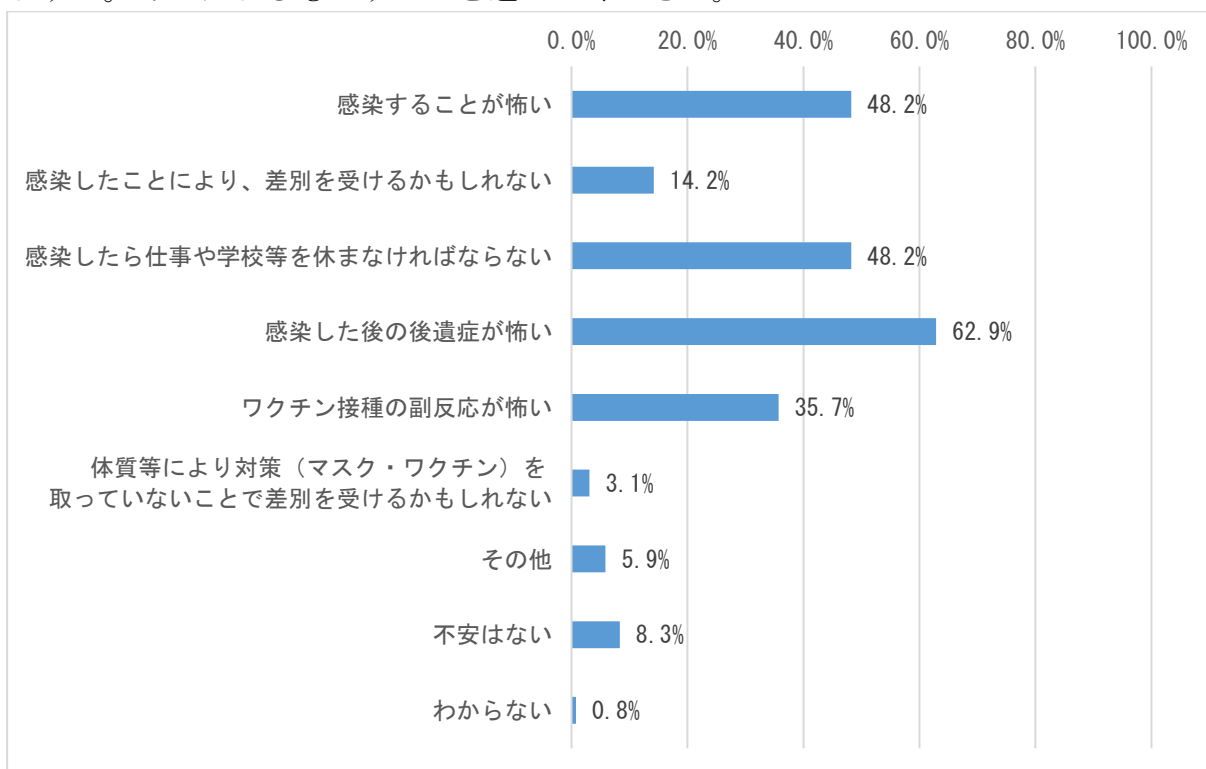


新型コロナウイルス感染症について、県内で感染が最初に確認された令和2年1月30日から約1年の期間中に、不安に思っていたことについて、最も多い回答は「感染することが怖いと思った」74.3%（670人）で、次いで「感染した後の後遺症が怖いと思った」62.7%（566人）、「感染したら仕事や学校等を休まなければならないことを不安に思った」58.8%（530人）でした。

また、「その他」を選んだ方の回答では、「自分が家族や他の人にうつしてしまうことへの不安」を挙げた方が多く、他にも「未知の感染症への恐怖」、「育児への支障」などが挙げられました。

Q 1 3 新型コロナウイルス感染症に対する不安について（現在）

あなたは、新型コロナウイルス感染症について、現在不安に思っていることはありますか。あてはまるものすべてを選んでください。



新型コロナウイルス感染症について、現在（令和4年11月）不安に思っていることについて、最も多い回答は「感染した後の後遺症が怖い」62.9%（567人）で、次いで「感染することが怖い」48.2%（435人）、「感染したら仕事や学校等を休まなければならない」48.2%（435人）、「ワクチン接種の副反応が怖い」35.7%（322人）でした。「その他」を選んだ方の回答では、Q 1 2と同様に、「自分が家族や他の人につつしてしまうことへの不安」などが挙げられました。

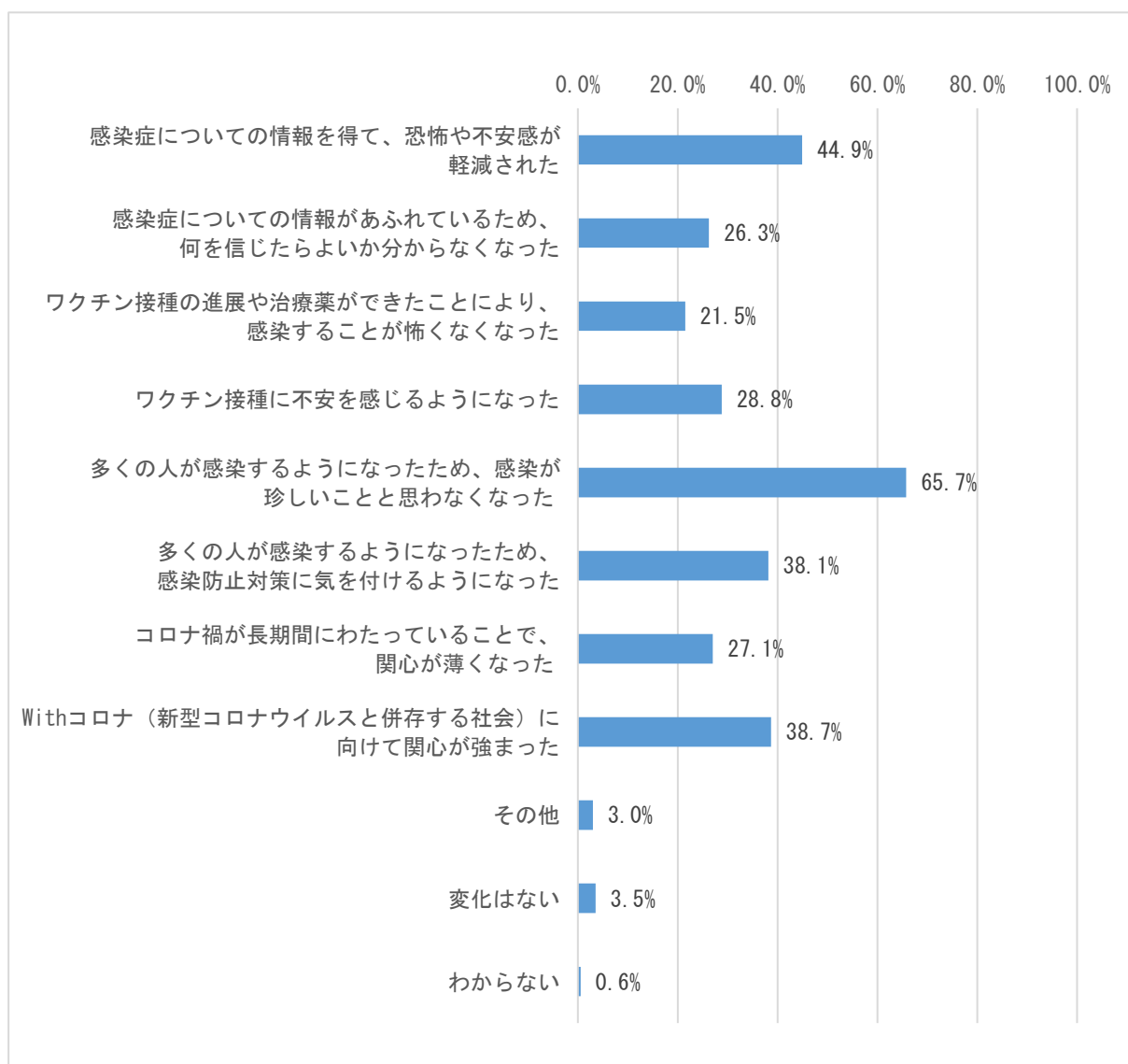
	Q 1 2 令和2年 (2020年)	Q 1 3 令和4年 (現在)	増減
感染すること	74.3%	48.2%	△26.1
感染したことにより、差別を受けること	46.6%	14.2%	△32.4
感染したら仕事や学校等を休まなければならないこと	58.8%	48.2%	△10.6
感染した後の後遺症	62.7%	62.9%	+0.2
ワクチン接種の副反応	-	35.7%	-
体質等により対策（マスク・ワクチン）を取っていないことで差別を受けるかもしれないこと	5.2%	3.1%	△2.1

また、令和2年（Q 1 2回答）と現在（令和4年：Q 1 3回答）を比較すると、「感染すること」や「感染による差別」への不安は減少しています。

一方で、「後遺症」に対する不安は引き続き高く、正確な情報の発信に努めていく必要があります。

Q14 新型コロナウイルス感染症に関する意識の変化について

新型コロナウイルス感染症に関する意識について、県内で感染が最初に確認された令和2年1月30日から現在までの間に、どのような変化がありましたか。あてはまるものすべてを選んでください。

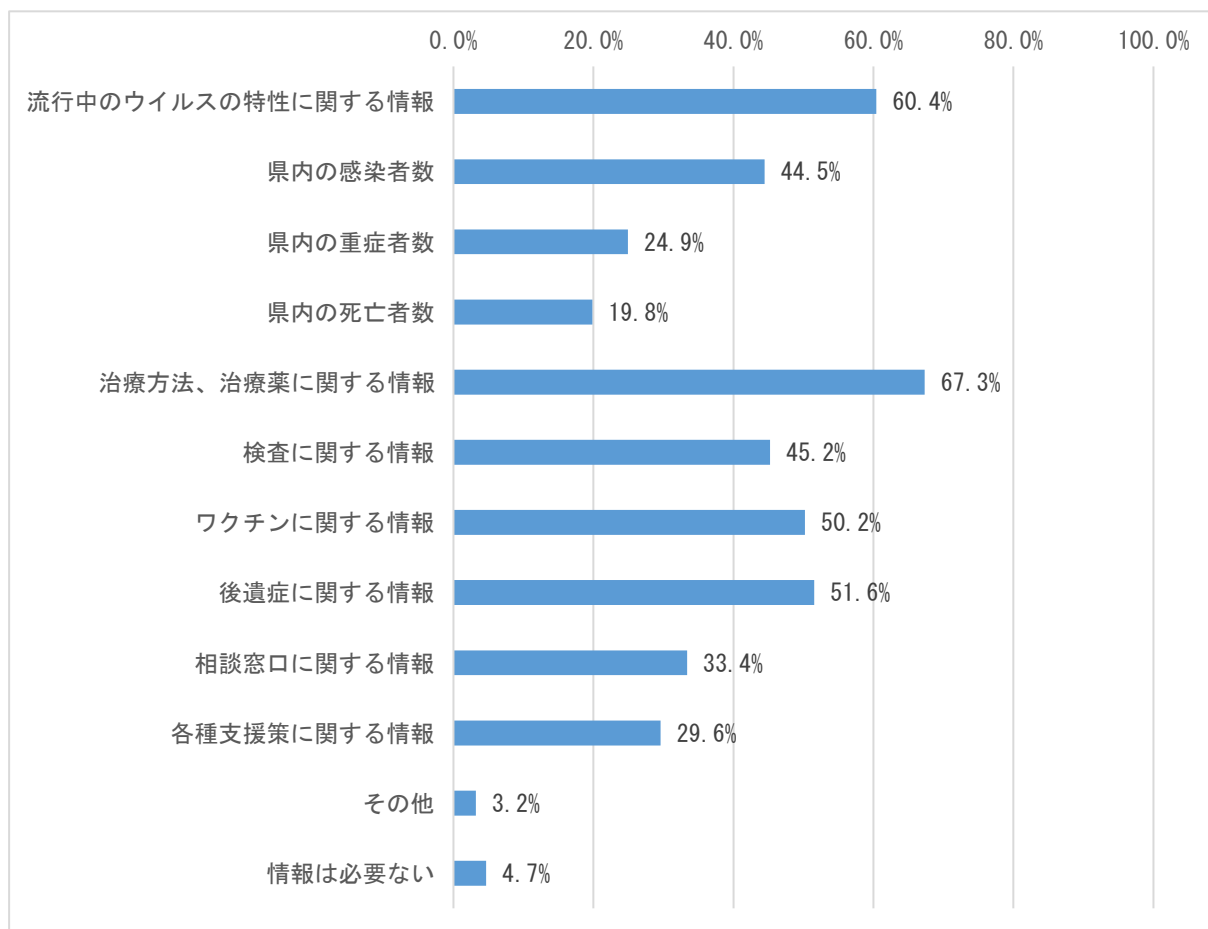


新型コロナウイルス感染症に関する意識の変化について、最も多い回答は「多くの人が感染するようになったため、感染が珍しいことと思わなくなった」65.7%（593人）で、次いで「感染症についての情報を得て、恐怖や不安感が軽減された」44.9%（405人）、「With コロナ（新型コロナウイルスと併存する社会）に向けて関心が強まった」38.7%（349人）でした。

また、年代別にみると、70代以上では「多くの人が感染するようになったため、感染防止対策に気を付けるようになった」が最も多い回答となっています。

Q15 新型コロナウイルス感染症について得たい情報について

Q13でお聞きした新型コロナウイルス感染症に関する現在の不安を軽減させるために得たい情報はありますか。あてはまるものすべてを選んでください。



新型コロナウイルス感染症について得たい情報について、最も多い回答は「治療方法、治療薬に関する情報」67.3%（607人）で、次いで「流行中のウイルスの特性に関する情報」60.4%（545人）、「後遺症に関する情報」51.6%（465人）でした。